

## 高等学校における特別支援教育の取組

～各学校の実践事例を紹介します～

### ◇特集1 インクルーシブ教育システム構築モデル事業 ～鹿本農業高校の挑戦～

平成25年度から3年間のモデル事業の研究指定を受けていた鹿本農業高等学校と山鹿市教育委員会による合同成果発表会が平成27年11月20日（金）に行われました。

成果発表会では、合理的配慮の視点を取り入れた公開授業や、兵庫教育大学大学院樋口一宗教授の講演、ルーテル学院大学河田将一准教授をコーディネーターとしたパネルディスカッションが行われ、今後のインクルーシブ教育システムの在り方を考える貴重な機会となりました。そこで今回の特集では、鹿本農業高校の取組を幾つか紹介します。

#### ○その1:生徒の自尊感情を高めるためのショートコミュニケーションタイム

各クラスに職員を配置して少人数のグループをつくり、会話を中心としたコミュニケーションを図る取組です。少人数だからこそ、一人一人が安心して話すことができる環境が生まれます。また、多くの職員が関わることで生徒の相談窓口の充実を図っています。

#### ○その2:ユニバーサルデザインの視点を入れた「わかりやすい授業」

総合実習（果樹）の授業（単元「果樹の整枝・せん定<sup>ほししょう</sup>」）では、写真1のように圃場内にある果樹の枝を準備し、生徒たちが実際に「見て」「触れて」「嗅ぐ」ことを通して、それぞれの果樹の特性や性質への「気づき」を促していました。

この授業では教師からの「この枝は何の果樹の枝でしょう？」というクイズ形式の問いに対して、枝という「視覚化」された教材から得られる情報や感想が全員で共有されていました。そして、問いに対する答えを生徒同士で議論することで生徒同士の「学び合い」が実践されていました。



写真1：授業の様子（右上：枝の匂いを嗅ぐ生徒）

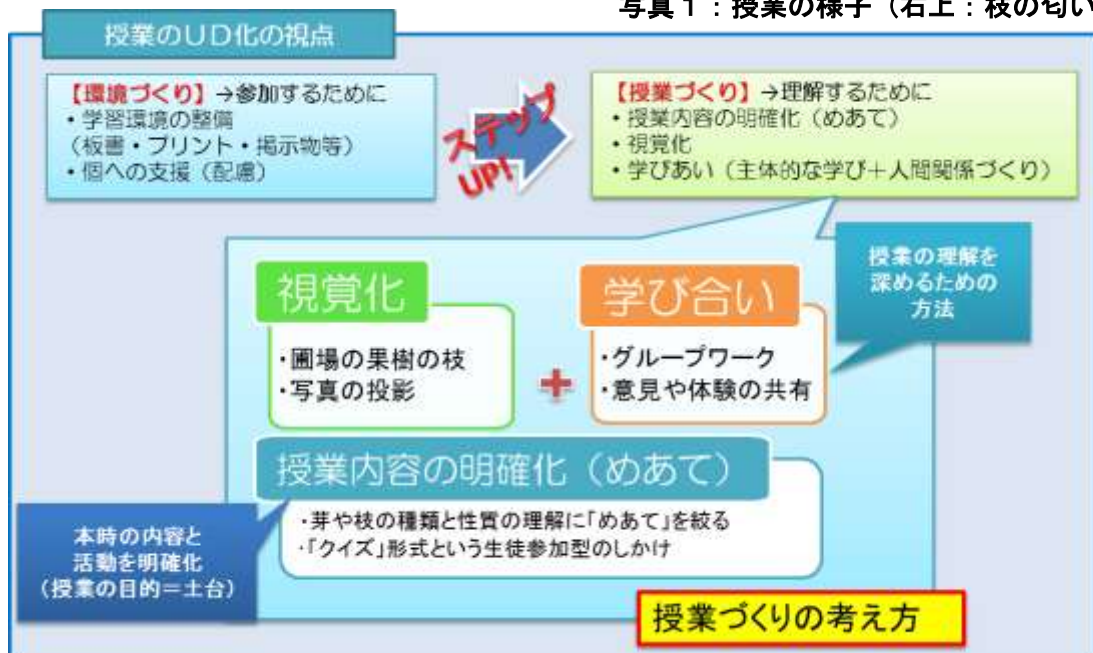


図1：UDの視点で捉えた総合実習の授業の構造

さらに写真2、3のように、公開された授業の多くで、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業の工夫が実施されていました。



写真2：コミュニケーション英語（視覚化）



写真3：国語表現（学び合い・班別の言語活動）

その他にも、農業高校ならではの農場や食品製造の実習では生徒一人一人が生き生きと学ぶ姿を見ることができました。

専門科目の座学においても、授業者の創意工夫で「わかりやすく」、生徒が「主体的に」学ぶことができます。このように、普通教科を含む教室での授業（座学）と農場等での実習を有機的に結び付けることは、専門高校だからこそ実践できるテーマだと言えます。

## ◇特集2 各学校のユニバーサルデザインの取組 ～スライドを用いない視覚化～ 八代農業高等学校泉分校の実践

今回紹介するのはパソコンなどICT機器を用いない視覚化の取組です。八代農業高校泉分校の調理実習では写真のように、調理の工程を写真にとり黒板に掲示しています。

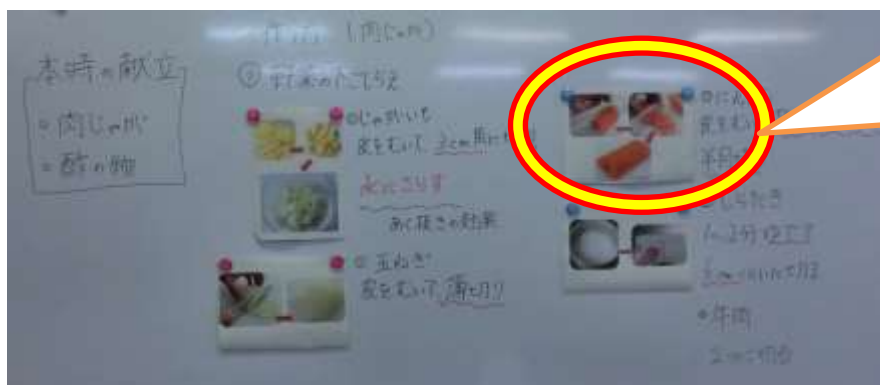


写真4：家庭総合（視覚化・見通し） ※拡大写真（1枚の写真にも細かな工程を明記）

パワーポイントなどのスライド資料の欠点として『モニターに一画面しか表示できない』ことがあげられます。（2チャンネル表示としても2画面まで、多チャンネル表示にすると設定やパソコン等のスペックの問題も出てきます）そのため、必要に応じてスライドを戻したり、先に進めたりする必要があり指導も煩雑になります。その問題を解消したのがこの工程一覧の掲示です。このことにより、生徒たちは各班の進度に応じて必要な工程に立ち戻ることができ、さらに視覚的に理解することができます。そして、もう一つの効果は、生徒たちが調理の工程に「見通し」を持てることです。

今回紹介したような工夫をすることで、授業の難易度や質を下げることなく、生徒の主体的な学びを引き出すような授業が展開できます。是非、各学校において、ユニバーサルデザインの視点を用いた授業改善の推進をお願いいたします。